

1 学校として目指す授業

主体的・対話的で深い学びを実現するため、見通しをもって授業づくりを行う

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語・数学・理科のいずれも、全国・東京都の平均正答率を上回っている。領域別にみると、国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が、数学では「関数」の領域の正答率が、理科では「粒子」の領域の正答率が他の内容の正答率に比べるとそれぞれ少し低い。対策が必要となってくる。	国語・数学・理科の勉強は好きですかという質問に対して、肯定的回答の割合はそれぞれ71%・54%・56%となっており、数学と理科では全国・東京都の平均よりも低くなっている。また、国語・数学・理科の授業の内容はよく分かりますかという質問に対して、肯定的回答の割合はそれぞれ82%・74%・54%となっており、理科への苦手意識が強いことがうかがえる。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3年生）

国語・社会・数学・理科・英語の「授業内容はどのくらい分かりますか」という質問に対する全学年合計での肯定的回答の割合は、それぞれ94%・82%・85%・73%・84%となっており理科の授業内容の定着に不安を抱いている生徒が多いことが分かる。理科について学年ごとにみると、1年生は肯定的回答の割合が94%と高い値なのに対して、2年生は63%、3年生は64%と2年生以降での対策が必要となってくる。また、「教科書を読むなどして、授業でこれから学習することの見通しをもつようにしている」という質問に対する全学年合計での肯定的回答の割合は56%と低い値となっており、見通しをもって学習に臨む姿勢を育てていくことが必要となってくる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2年生）

国語・数学いずれの調査でも、正答率の平均は市・全国と比べて上回っている。観点別で見ると、数学では「知識・技能」「思考・判断・表現」の正答率がともに市・全国を上回っているが、国語では「知識・技能」の正答率が全国を下回っている。言葉・情報・言語文化に関する領域が少し低めな傾向があるため、基礎基本の知識の定着ができるような授業が必要である。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・学校評価アンケート(生徒用)の「先生方はICTを活用する等わかりやすい授業を行って来ている」という質問に対する肯定的回答(あてはまる・どちらかといえばあてはまる)の割合が、R4年度・R5年度と89%だったが、昨年度は95%と増加した。各学年の肯定的回答の割合は1年生92%、2年生99%、3年生93%と各学年とも概ね高い水準となっている。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

「授業のねらい・目標を明示し振り返りを行って来ている」という質問に対する肯定的回答の割合は各学年合計で88%と高く、教師が見通しをもたせて学習を進めることは定着してきている。しかし、「どうやったろうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている。」という質問に対する肯定的回答の割合は、各学年合計62%とあまり高くなく、自ら考えて見通しをもって学習を進めることが難しい生徒が一定数いる。

【授業改善推進プランの活用法】

- ① 「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ② 「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の代表的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③ 「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④ 「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤ 「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥ 12月末に実施状況の評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

主体的・対話的で深い学びのある授業（問題解決型の授業や生徒が見通しをもてる授業）を実践するために、協働的な学び・対話的な学びを意図的に取り入れた授業を展開する。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学 年	少人数での班活動を多く取り入れ、自分の考えを他者に伝える機会を多く設ける。	◎	言葉の力が不足しているため、教科書本文を読む力や理解力を向上させるために、教科書全文読みなどを継続していく。	◎	全体で内容や考え方を確認し、自分の考えを生徒同士で説明させる活動を取り入れることで、理解を協働的に深めさせる。	◎	実生活に基づいた課題を設定し、実験や観察等を通して、実体験させ、協働的に学習できる授業を実践する。	◎	曲想についてグループで話し合い発表したり、合奏、合唱を主体的に行える場面を作る。	◎	鑑賞の授業として、グループで意見交換会を行い、発表させることにより、他者の意見も感じとらせる。	◎	グループ学習を通して互いの良い所や改善点などを話し合わせる機会を設ける。	◎	ICTを活用しつつ、グループ活動や実習を通して、学習内容をより定着させるよう指導する。○実習を通して体験学習を経験させ他者との工夫の違いを知るとともに、次に活かせる仕組みを知る。	◎	英語による対話をペア活動で繰り返すことにより自身が伝えたい内容を文字や英会話で表現できる授業展開をする。	◎	対話を通して考える場面を設定し、発表し合うことで主題への理解を深めている。	◎
2 学 年	班活動の前に個人で考える時間をとり、自分の考えをまとめてから他者に伝えられるようにする。	◎	言葉の暗記だけにならないよう、教科書資料や本文から、背景や情勢を踏まえて考察させ、資料を読み解く力を育成する。	◎	生徒同士の教え合いの活動を積極的に活用し、協働して問題解決を図る機会を設けることで、理解を深めさせる。	◎	生徒同士の学び合いの場を授業内で設定し、生徒同士で課題を解決させ、学習内容の理解を深めさせる。	◎	グループでの話し合いや発表を通して、表現することや、曲に対する理解を深める。	◎	鑑賞の授業で、個人で感じたことをワークシートにまとめ、発表させることにより、共通理解を計る。	◎	個人種目においても生徒同士が教え合ったり話し合ったりする機会を多く取り入れる。	◎	ICTを活用し基礎知識の確認、課題に対し生徒同士の話し合いにおいて方向性の理解を深める。○実習を通して、生活を豊かにする技術を身に付けるとともに、想像力をはたかせる取り組みを意図的に設定する。	◎	帯活動などで対話活動を意図的に取り入れ、自己表現力を高め学び合える場面を設定する。	◎	個々で考え、対話を通して他者の意見を知り、協働的な作業や発表において学びを深める。	◎
3 学 年	漢字小テストや意味調べなどの一方向だけではなく、授業内で新出語句の活用方法を例文作成等の実践形式で行い、対話を通して身に付ける時間をつくる。	◎	知識活用のための話し合い活動を設定し、思考力や表現力を実践的に向上させ、学びを、点から線、面へと展開していく。	◎	生徒同士の対話によって、問題解決を図るような機会を設けていくことによって考えを深めさせる。	◎	計算演習や実験授業等、生徒同士の学び合い活動をより多く設定し、学習内容の理解を深めさせる。	◎	グループ活動や発表を通して、協働的な学びからより良い演奏を目指す場面を多く作る。	◎	鑑賞の授業として、一つの作品について意見交換会を行い、他者の意見も感じとらせる。	◎	ICTを活用しながら課題を発見し、生徒同士の教え合いや話し合いを通して課題を解決に向かわせる。	◎	ICTの進歩について理解し、活用の仕方を話し合い判断基準の一つ考える。○調理・裁縫実習を通して、今まで習った学習内容をより定着させ、生活に生かす力を育成する。	◎	ペア活動やグループ活動を様々な場面でを行い、対話的な授業と、問題解決型の学習が可能となる授業を展開する。	◎	個々で課題に向き合った後に他者と意見を交流し、他者の意見を尊重しながら自らの考えを広げる。	◎